

先輩ママからのメッセージ by がんちゃん 「勇敢な赤ちゃん」



ダウン症の赤ちゃんは、
育てられる人のところにしか産まれて来ないって。

私、選ばれた。

なんて思ってたけど、最近ふとこんなことを考えた。

1000人の、これから産まれる赤ちゃんがいます。
この中で、誰か一人だけ、障がいを持って産まれなければなりません。
みんなためらう中、勇敢な一人の赤ちゃんが、名乗り出ました。

「みんなが嫌なら、ぼくが障がいを持って産まれます。
ぼくは障がいがあることが不幸ではないことを知っているから。」

勇敢な赤ちゃんに心を打たれた神様は、
その赤ちゃんに、障がいと一緒にたくさんの幸せを持たせてあげました。

そしてとびっきり愛してくれる家族のもとへ
舞い降りられるように。

それが、モコ。
モコがあえてダウン症を選んだの。
勇敢な、私の子だから。

あなたの元に舞い降りた、勇敢な赤ちゃん、
大切にしてくださいね。



(2007年7月30日 かんたろうブログ「休憩促進委員会☆」より・モコ当時5ヶ月)

先輩パパからのメッセージ

早佑くん・3歳のパパ

健康な子どもが生まれてきて当たり前と思っていたので、早佑にダウン症と合併症があると聞かされた当初は本当にショックでした。

しかし、今になってそのことを考えると、すごくくだらないことで悩んでいたなど…。

今では、『ダウン症という長所とキャラクター』を持って我が家に生まれてきてくれた早佑を、もっとたくさんの人に見てもらいたいと思っているくらいです。

今、我が家の中心には早佑がいるし、仕事で疲れて帰ってきてても早佑の笑顔に助けられます。

早佑にはこの先まだまだ乗り越えなくてはならない壁がたくさんあるけど、家族全員でそれを乗り越えられる。そう思わせてくれたのは早佑本人です。

早佑が生まれて家族が強くなりました。

我が家に生まれてきてくれてありがとう。



リガちゃんのパパ

我が家に3番目に生まれた待望の女の子。将来が分からなくて、就学、就労、世間体など、不安でいろいろ悩みました。でも、きょうだい児と本人のためと努めて明るく楽しく過ごした日々は、間違いなく「幸せな日々」でした。娘が4歳になった今も障がいを受け入れられたのか、というよりも、そもそも受け入れる・受け入れないということ自体がわかりませんが、私にとって、娘がいる家族5人の生活は宝物です。

私が思うことは、「今」の積み重ねが将来に繋がるということ。「生まれてきて幸せなのか」ではなく「幸せに生きる」ことを大切にしてほしいと思います。

どうか、家族みんなで「今」を幸せに生きてください。

ヒロくんのパパ (派遣のヒロさん)

息子が生まれて、かれこれ8年になります。その間いろいろなことがありましたが、特に生まれてすぐの頃が一番思い悩んだ時でした。その頃、ダウン症があるうえに耳が全く聞こえないと言われ、家内と何度も泣いたものでしたが、今は幸いにも無駄な悩みとなっています。

また会社を抜けて病院に行くことも多く、周囲の理解も必要でした。そのため、ヒロくんが生まれて数年は何かと忙しく、その中で父親として息子や家族にできることは何なのかを常に模索していたように思います。

今も自分の不甲斐なさや日々闘いながら（ほぼ負けてますが…）、家族皆、何かと幸せに暮らしています。仕事などで多くのストレスを抱えることもありますが、お互い、工夫しながら乗り切っていきましょう。

日ちゃんのパパ (スッシーさん)

我が家のダウン症児は、平成20年生まれの子です。

ダウン症は顔つきに特徴があるということは知っていて、生まれてきた娘の顔を立ち会い出産で見た瞬間に、ぱっとそのことが頭に浮かびました。

診断がつくまでは、娘の顔を眺めては、「ダウン症っぽい。いや、普通だ」の繰り返しでした。

診断後は、娘のことは積極的にオープンにしていきました。すると、身近にダウン症のある方がいたり、思わぬところから情報を得たりすることができ、とてもよかったです。自分の世界も広がりました。

「大変だね」とよく言われますが、子育ては、えてして大変なものだと思います。

ほとんどの親が一生懸命子どもを育てるのと同じように、私は娘を、妻と一生懸命育てます。



きょうだいからのメッセージ

わたしのたからもの

おおたに いおり (当時小学2年生)

わたしのたからものは、わたしの1さいのおとうとです。
おとうとのなまえは、こうたろうといいます。
こうたろうは、わたしがようちえんのときに、うまれました。
こうたろうは、ちいさいのに、とっても大きなこえでなきます。
おとうとは、うまれてすぐに、わたしがだっこするとわらいました。
とてもかわいらしかったです。
わたしは、おとうとをだいじにしたいです。
おとうとは、21トリソミーで、せんしょくたいが1本おおいので
大きくなるのがおそいふうにうまれてきました。
でも、おとうとはかわいいので、うまれてきてよかったです。

おとうと

いとうりこ (当時小学2年生)

あいうえおとうと	かわいいな
かきくけころころ	ねがえるよ
さしすせそろそろ	ミルク かな
たちつてときどき	ないてるよ
なにぬねのんびり	ひるね かな
はひふへほんとは	かわいいな
まみむめもうすぐ	おすわりね
やいゆえよしよし	いい子 だね
らりるれろろん	かわいいね
わいうえおなまえ	ゆうとくん



僕の姉

伊藤 大地 (中学2年生)

皆さんはダウン症という障がいを知っていますか。

僕が小学校に入学する少し前に、初めてお母さんと二人だけで遊びに出かけた。どこに出かけたのかは覚えていないが、最後にファミレスでご飯を食べた。その時、僕の姉がダウン症という障がいがあると聞かされた。当時の僕には難しい話だったが、僕が小学校に入学したら姉のことで嫌な思いをするかもしれない、でも誰も悪くないから堂々としなさいと言われたことはよく覚えている。

～中略～

小さい頃の姉は具合が悪くなると入院することが多かった。全身の筋肉が弱くて僕たちが簡単に出来ることでも、姉にとっては大変な時がたくさんある。そんな大変なことが僕にもわからなく、行動が遅くてイライラする時もあるし、根性のある頑固になる時には頭にくる。障がい無く生まれてきた兄弟でも、そんな風に思うことはあると思うし、兄弟げんかだってする。姉はやると決めたことは必ず頑張り続けるし、我慢強い。人の悪口も言わないし、人の良い所を見つける。いじめられてもすぐ許すことが出来る。なんでも前向きに考えるし、挑戦する勇氣もある。毎年僕の誕生日に、頑張って作った手作りのプレゼントをくれる。

～中略～

ダウン症は姉が病気になったのもお母さんが病気になったのも無く、千人の赤ちゃんに一人の確率で生まれてくる障がいだと聞いた。もしかしたら、僕がダウン症で生まれる可能性だってあったはずだ。姉が千人の代表になって生まれただけなのに、それがわからない人が大勢いる。

きょうだいからのメッセージ

僕のお父さんは姉を障がい児として特別扱いはしない。悪いことをすればすぐ怒るし、良いことをすればすぐほめる。

母は姉の障がいを知った時に、ショックが大きく毎日泣いて一年以上家からほとんど出られなかったようだ。それでも父はどこにでも姉を連れて行ったと聞いた。すごいと思った。僕は生まれてから母が泣いたところを見たことがない。今までたくさん泣いたから、どんなことがあってももう泣かないと決めたらしい。

そんな両親で良かった。そんな両親だからか、姉が障がい児学級で過ごすことを選ばなかった。小学校も中学校も通常のクラスで姉は過ごした。姉は友達と楽しく過ごすことが嬉しくて、自分の出来ることを頑張り、僕より勉強をしていた。でも、每晚遅くまで姉のためになることや法律を調べたりしていた母が、姉にひどいことを言う人にも、頭をペコペコ下げていたのが嫌だった。障がい児として生まれただけで、皆と同じクラスで過ごすことがこんなに大変なっておかしいと思った。僕も悔しかった。皆んな同じに過ごさなければ解ってもらえるはずがないと思う。車椅子の障がいのある人などは、どんなことに手を貸してあげられるか解りやすいと思う。でもダウン症の人はそれぞれ僕達と同じに違っていて、手を貸してほしい所も違っている。だからこそ、もっと皆んなが障がいを理解してその人自身を知ることが大切なんだと思う。障がいのある人ない人を分けなくてほしい。僕達皆んな、命の重さは同じなんだから。

第40回（2016年）神奈川県福祉作文コンクール

中学生の部 最優秀賞（神奈川県知事賞）受賞作文より掲載